

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 鈴木 深由希

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	杉原利明	経理責任者	鈴木亨
視 察 議 員	鈴木 深由希			
期 間	令和 4 年 7 月 22 日（金）			
視 察 先	オンライン			
視 察 用 務	実態議員防災研修			
視察先対応者	株式会社防災士研修センター：一般社団法人令和防災研究所			
概要及び所見	<p>「災害と避難」～近年の災害事例を教訓として～ 講師：橋本茂 令和防災研究所リサーチフェロー（日本防災士参与） ○課題：自治体職員、消防署員がくまなく訓練を行うことはマンパワー不足で不可能。 要配慮者、要配慮者利用施設、介護サービス事業者には個別避難計画、避難行動計画、BCP 作成義務付け→防災リーダー養成、自主防災組織滑石か、地区防災計画、学校の訓練の徹底 ○災害時における議員の役割：防災住民組織などをはじめ地域住民として、実際に現場で救護活動にあたる。議会として組織的に執行機関と連携して災害時に対応。議員は住民と行政のパイプ役として重要な役割を担う。</p> <p>「社会的排除による危機」～組織テロから個人テロへ～ 講師：青山やすし 令和防災研究所所長（明治大学名誉教授） ○テロ：危機管理概念の拡大と進化。計画との接近。未然防止。 想定外の対処、歴史的に培ってきたそこ時からが物を言う。 ○感染症対策：地域医療機関と自治体との連携協力関係。市民と自治体との信頼関係。根底には歴史的な市民経済の豊かさが求められる。自</p>			

治体財政ではなく市民の家計の底力。

「災害と危機管理」～国家安全保障戦略における国民保護法～

講師：中林啓修 令和防災研究所アカデミックフェロー

(国士舘大学 防災・救急救助総合研究所准教授)

- 災害別（自然災害等→緊急処理事態→武力攻撃事態）、災害の進展に応じた（初動・応急対応→応急復旧→復旧・復興）制度展開。
- 武力攻撃災害での国民保護措置：国・県・指定公共機関等（避難経路の確定・輸送力の確保・最終調整・輸送実施）。
- 国民保護は自体対処全体の中で位置づけられるべきものであるにもかかわらず全体像は提示されてきていない。訓練自体が緊急処理事態に偏重しているため国民保護簿全体像を検討・検証する機会自体が極めて乏しい状況にあった。っ区民保護措置を実施する際に必要な人員や資機材の調達可能の有無など、制度の根本に関わる実効性の担保を明確にするべき。

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 鈴木 深由希

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	杉原利明	経理責任者	齊木亨
視察議員	鈴木 深由希			
期 間	令和4年7月23日（土）			
視 察 先	オンライン			
視 察 用 務	自治体議員防災研修			
視察先対応者	株式会社防災士研修センター 一般社団法人令和防災研究所			
概要及び所見	<p>「自然災害と地域の安全」～防災「も」まちづくり～ 講師：加藤孝明 令和防災研究所アカデミックフェロー （東京大学生産技術研究所教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題山積の時代：財政難＋人員削減⇒縮む縦割り機能・既存組織 ○「温故“創”新」の考え方：水防災意識社会の再構築→水害に対して常に防災意識を持っている社会である。ブリコラージュ方法。 ○自助・共助・公助のあるべき姿：共助→リアリティを持って理解する。 足りていない状況をお互いの力で理解する→順番に埋めていこうとする自然な力が働く。 ○災害時自立生活圏の構築：「省需要」「持ち寄りの共助」「安全のお裾分け」 ○防災【も】まちづくりである。防災教育はノウハウよりベース。運命共同体意識の醸成不可欠。 防災【だけ】で地域づくり、都市づくり、まちづくりが進んだ例は無く、日常生活と災害への備えを重ねるまちづくりが「防災【も】まちづくり」になる。 			

	<p>【防災における議員の役割】</p> <p>「防災の本質～思い込みとエビデンス」 講師：早坂義弘（東京都議会議員）</p> <p>○防災対策の新たな課題：災害関連死への議論を深める。</p> <p>「荒川治水と銀・市民の流域ネットワーク活動」 講師：土井裕之（さいたま市議会議員）</p> <p>○荒川治水の課題：ハザードマップ各種浸水への警鐘は地形を基に被害想定を可視化したもの。地形を踏まえた都市運営を今後強く意識していくべき。</p>
--	--